公認心理師の会　2025年後期研修会　ワークショップ一覧

2025年10月12日(日)　WS1・WS2・WS3・WS7【午前】10:00~13:00

WS1 【3時間】	日時	10月12日(日) 10：00～13：00	会場	第1会場（KOMCEE East K211）
	企画	研修会委員会		
	タイトル	公認心理師が知っておくべき心理支援技法：ACT（アクセプタンス&コミットメント・セラピー）		
	司会	有光　興記（関西学院大学）	講師	大月　友（早稲田大学 人間科学学術院）
	概要	アクセプタンス＆コミットメント・セラピー（ACT）は、行動分析学や関係フレーム理論などの行動理論を基盤とした認知行動療法（CBT）の一種です。ただし、行動理論にあまり“精通していなくても”、感覚的（体験的）に理解しやすいようにモデル化（心理的柔軟性モデル）されています（もちろん、その功罪はありますし、基盤となる理論に“精通している”に越したことはありません！）。また、このモデルは特定の疾患や問題に特化しているのではなく、診断横断的であることも大きな特徴です。そのため、様々な背景を持つ公認心理師の皆さんにも、知っておくと役に立つ心理支援技法であると思います。当日は、ACTの概要を説明しながら、ケースフォーミュレーションや介入について、メタファーやエクササイズを用いながら体験的に解説していきます。		
	想定する対象者	初学者、中級者向け		
WS2 【3時間】	日時	10月12日(日) 10：00～13：00	会場	第2会場（KOMCEE East K212）
	企画	研修会委員会		
	タイトル	公認心理師が知っておくべきアセスメント技法：神経心理学的アセスメント		
	司会	丹野　義彦 （東京大学 名誉教授／公認心理師の会 理事長）	講師	緑川　晶（中央大学 文学部）
	概要	公認心理師が知っておくべきアセスメント技法の一つとして神経心理学的アセスメントがある。神経心理学的アセスメントは、脳の障害に伴う認知機能や情動面の課題を把握し、当事者がより良い人生を送れるように支援することを目的としている。アセスメントの中核となる手段が神経心理学的検査であるが、すべての側面を網羅的に評価することは困難なため、適切な検査を選択して実施・解釈することが不可欠である。検査結果からは様々な情報を得ることが可能だが、アセスメントは検査だけで完結するものではなく、心理学のみならず神経科学などの知見を踏まえ、当事者を包括的に理解し、そこで得られた情報をもと他職種と協働して支援を行うこととが重要となる。		
	想定する対象者	初学者／初級		
WS3 【3時間】	日時	10月12日(日) 10：00～13：00	会場	第3会場（KOMCEE East K213）
	企画	司法部会		
	タイトル	精神・心理鑑定に求められる公認心理師の知識・技能・態度		
	司会	西中　宏吏（早稲田大学 人間科学学術院）	講師	西中　宏吏（早稲田大学 人間科学学術院） 浦田　洋　（京都橘大学 総合心理学部）
	概要	鑑定は、法実務家や裁判員が法律判断をする際に、必要な知識が足りない場合に、これを補う目的で行われる。特に公認心理師が関与する鑑定には、精神鑑定（刑事責任能力鑑定、医療観察法鑑定など）と犯罪心理（情状）鑑定がある。前者では鑑定人である精神科医を中心とするチームの一員として、後者では鑑定人として公認心理師が関わることになる。 鑑定での公認心理師の仕事は、臨床で実践される専門性を基礎にして行われる。しかし、鑑定と臨床ではその性質や目的に違いがあり、それに伴い、公認心理師の振る舞いや求められる技術が異なる点がある。研修会においては、2名の講師により、精神鑑定と犯罪心理鑑定それぞれについての経験を踏まえながら、鑑定に携わる公認心理師に求められる知識・技能・態度について解説する。		
	想定する対象者	精神鑑定または犯罪心理鑑定に携わる（予定の）心理職従事者、司法・犯罪分野の心理職従事者、大学院生など		
WS7 【3時間】	日時	10月12日(日) 10：00～13：00	会場	第4会場（KOMCEE East K214）
	企画	教育・特別支援教育部会		
	タイトル	スクールカウンセリングの基礎基本		
	司会	大橋　智（東京未来大学）	講師	森　真琴（千葉県教育庁教育振興部）
	概要	スクールカウンセラーに寄せられる期待は年々高まり、その業務は多岐にわたります。子どもたちが抱える課題が多様化・複雑化する中、円滑かつ効果的な支援の提供が喫緊の課題となっています。 本研修会は、公認心理師としてスクールカウンセリングに携わる専門職の皆様を対象に、日々の実践に直結する基礎・基本の習得を目指します。研修では、学校現場におけるスクールカウンセラーの役割と活動、個別の事例介入以前に不可欠な関係構築のプロセス、そして具体的な支援技術について、一連の流れを通じて体系的に学びます。 本研修を通じて、参加者の皆様が子どもたち一人ひとりに対して、より質の高い心理支援を提供するための専門的力量を一層向上させることを目指します。		
	想定する対象者	他分野でご活躍で、これからSCを目指す方、SC経験年数が１～４年程度の方		

2025年10月12日(日)　WS4・WS5・WS6【午後】14:00~17:00

WS4 **【3時間】**	**日時**	10月12日(日) 14：00～17：00	**会場**	第1会場（KOMCEE East K211）
	企画	医療部会		
	タイトル	エビデンス（データ）を日々の臨床に活かそう：しなやかで芯のある実践を目指して		
	司会	石川　亮太郎（大正大学）	**講師**	三田村　仰（立命館大学 総合心理学部）
	概要	「エビデンス」とは臨床判断に用いるためのデータのことです。そこにはランダム化比較試験(RCT)やメタ分析から得られたデータはもちろんのこと，一事例デザインや質的研究，プロセス研究から得られた知見も含まれます。こうした情報（エビデンス）は，現場での実践家の振る舞いを制約するものではなく，むしろ，より的確な臨床判断を助け，効果的な実践を後押しするためにあります。また，現場においてエビデンスを活用することとは，ある特定の理論やマニュアルに従うということでもありません。研究によって明らかになっている「共通要因」や「変化の原理」，「変化のプロセス」と呼ばれる各ポイントを抑え柔軟に実践することもまた，エビデンスの活用だといえるでしょう。当日は，このエビデンスとは何か，また，実践家はどのようにさまざまなエビデンスを活用して日々の実践に役立てるかを考えていきます。		
	想定する対象者	現在、臨床や実践に携わられている方やこれから実践に携わろうという方		
WS5 **【3時間】**	**日時**	10月12日(日) 14：00～17：00	**会場**	第2会場（KOMCEE East K212）
	企画	福祉・障害部会		
	タイトル	検査に依らない認知症の心理的アセスメント―神経心理学的観察と日常会話による認知症評価法―		
	司会	森本　浩志（明治学院大学）	**講師**	大庭　輝（弘前大学大学院保健学研究科）
	概要	認知症のアセスメントにはMini-Mental State Examinationや改訂長谷川式簡易知能評価スケールといった心理検査が用いられることが多い。これらの検査は高い信頼性と妥当性、スクリーニング精度を有するが、認知機能が正常であればほぼ満点が取れる課題で構成されている。そのため、検査を受ける高齢者にとってしばしば心理的な苦痛を生じさせる。また、重度の認知症の人には適用できないことも少なくない。一方、認知症のアセスメントはこうした課題に基づく心理検査だけではない。認知機能障害により様々な行動上の特徴が現れることはよく知られており、観察による評価も極めて有効である。この研修では課題型の検査に依らない認知症のアセスメント法として、第一に神経心理学的な観察に基づくアセスメントについて取り上げる。そして、日常会話の中から認知症を評価する手法である日常会話式認知機能評価CANDyを紹介し、評価にあたってのコミュニケーション上の留意点について解説する。		
	想定する対象者	医療・福祉領域で認知症高齢者への支援に携わる心理職		
WS6 **【3時間】**	**日時**	10月12日(日) 14：00～17：00	**会場**	第3会場（KOMCEE East K213）
	企画	産業・労働部会		
	タイトル	働く人のウェルビーイング～改めて理論から理解する～		
	司会	田上　明日香（SOMPOヘルスサポート株式会社）	**講師**	渡辺　和広（北里大学 医学部公衆衛生学）
	概要	労働者は一般集団と比較すれば健康な集団であり、精神疾患・障害の治療よりもその予防が重視されやすい集団である。近年では、企業が労働者の健康に投資をすることで、活力向上や生産性の向上等を意図する健康経営という仕組みが浸透し、職域でメンタルヘルスのポジティブな側面に焦点を当てた活動が盛んに行われるようになった。その延長で、ウェルビーイングを扱う研究・実践も増加しているが、その理論や構成概念が正しく理解されていない場合もある。本ワークショップでは、ウェルビーイングの定義、類型、および測定尺度等を解説するとともに、職域で扱われている「ウェルビーイング」の内容を精査する演習を通じて、働く人のウェルビーイングへの理解を深めることを目的とする。		
	想定する対象者	働く人を対象として研究・実践を行っている人		